

川口の教育



【令和7年度川口市中学校駅伝競走大会 令和7年10月22日（水）川口市立南中学校周辺】

第678号

【目 次】

指導の手引き 小学校学習指導要領実施状況調査からみる社会科の授業

川口市教育局局长学校教育部指導課 指導主事 堀 祥子 ・・・・・・(2)

体験！発見！科学館 川口市立科学館 副主幹 廣戸 理伸 ・・・・・・(3)

あなたは、まだ本当のベーゴマを知らない ②歴史編 教育総務部 文化財課 ・・・・・・(4)

令和7年度 川口市中学校駅伝競走大会結果 ・・・・・・(5)

教育ルポ ・・・・・・(6)

11 月号
—令和7年—

指導の手引き 小学校学習指導要領実施状況調査からみる社会科の授業

川口市教育局学校教育部指導課 指導主事 堀 祥子

はじめに

令和4年度に小学校学習指導要領実施状況調査が実施され、その成果と課題、改善の方向性が整理された。ここでは、この結果から明らかになった成果と課題の中から、本市の課題でもある「まとめる」場面において、実際の社会科の授業に即して述べる。

1 小学校学習指導要領実施状況調査成果と課題

学習指導要領実施状況調査から明らかになった成果と課題については、4点に整理されている。問題解決的な学習活動の充実に関するものが3点、内容の充実に関するものが1点である。今回は「まとめる」に関わるところを抜粋する。下線は課題である。

○資料から情報を読み取ることは相当数の児童ができるが、社会的事象の特色や意味を考え説明することや、読み取ったことを基に図や文などにまとめることに課題があると考えられる。

社会科 第4学年(5)「国際交流に取り組んでいる地域」B冊子6(2)【通過率25.9%】

○資料から読み取ったことを基に、国際交流に取り組む地域の特色を2つの言葉(特色・国際交流)を使って文でまとめる問題。学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる力(知識及び技能)の育成の状況について測る問題。

【正解例】

国際交流を特色としたまちづくりをめざしている。

通過率が約4分の1の児童に止まった理由の1つは、授業の「まとめ」「学習問題の結論」を自分の言葉で書いていないことが挙げられる。教師が課題に対する「まとめ」を児童の発言を聞いてまとめて書いてしまうことが見られる。それでは、児童が「まとめ」を自分の言葉で書けるようにはならない。

2 成果と課題を踏まえた改善の方向性

明らかになった成果と課題を踏まえた改善の方向性としては、3点に整理されているが、今回「まとめる」に関わるのは次の1点である。

○指導上の改善点

・学習の問題について追究・解決の見通しをもつ活動、複数の情報を関連付けて社会的事象の特色や意味を考え説明する活動、学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる活動を重視する。

3 「まとめる」場面の授業紹介

社会的事象の見方・考え方を働かせて社会的事象を捉え、関連付けたり総合したりしてそれらの特色や意味を考えるように指導するためには、例えば以下のようなことが考えられる。

①資料や発問、学習活動の工夫

②「つまり」「たとえば」という言葉を使って考えさせること

③用語を指定すること

④学んだことを板書やノートなどで確認すること

⑤学級でまとめを共有する際に、自分の考えに友達の意見を追記させること

学習で身に付けた知識や技能を使って、一人一人が図や文などにまとめるができるようにすることが重要である。小学校3年生のうちから学んだことを基に児童が自分の言葉でまとめるように丁寧に指導することが大切である。

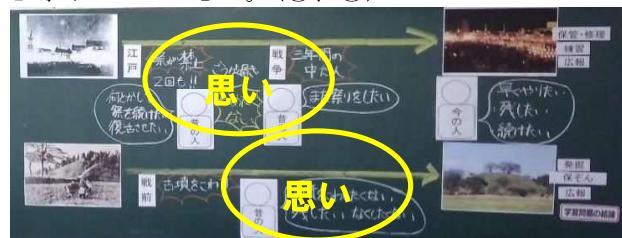
【第3学年】「火事を防ぐ」(1単位時間のまとめ)

本小単元では、地域の安全を守る働きとして消防署を取り上げ、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関の人々と協力して火災の防止に努めていることを捉えることをねらいとしている。本時の課題は「消防施設は、まちのどこにあるのだろうか」とし、予想した上で、小学校の周りの消防施設ごとに色別で記した地図を提示し、「消火器はどこに多いかな」などと問うた。また「なぜ、消火器はせまい道に多いのか」と配置の意味を問うた。まとめを書く際に、「まちの消防施設はどのようなものがあり、それらはどこに多いのか。なぜ、そこに多いのか」を問うことで、いつでも早く消火できるようにするという意味まで考え、まとめを書くことができた。(①)



【第4学年】「地域に伝わる文化財」(学習問題の結論)

本単元では、県内の文化財や年中行事として、秩父夜祭とさきたま古墳群を取り上げ、文化財や年中行事は地域の人々が受け継いでできることや、それらには地域の発展などの人々の様々な願いが込められていることを捉えることをねらいとしている。学習した2つの事象を比較・関連付けることで年中行事と文化財が存続の危機にあったことやそれらを乗り越え保存・継承しようとする人々の思いを考えさせ、話合いながら板書に整理したことで学習問題の結論を導くことができた。(①、④)



おわりに

教師オンライン質問調査において、「児童の疑問を引き出すような資料提示の方法を工夫すること」「学級全体で研究、解決する問題(学習問題)を決めて授業を行うこと」「調べたことや考えたことについて根拠や理由を説明すること」に対する肯定的な回答の割合が高い。また、児童質問紙においても問題解決的な学習過程の各場面に関する質問に対して肯定的な回答が多い。互いに問題解決的な学習過程の意識が浸透してきていると考えられる。学校訪問等で先生方の授業を拝見しても、同様のことが言える。さらに、児童質問紙では、「社会科が好きだ」「社会科の学習をすれば普段の生活や社会に出て役立つ」という項目は前回の調査より高くなっている。今後も社会科好きな児童が増えるために、問題解決的な学習の充実が図られるよう授業改善に努めていただきたい。

参考資料：国立教育政策研究所HP

「学習指導要領実施状況調査」

体験！発見！ 科学館



川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum

電話 048-262-8431
<http://www.kawaguchi.science.museum>

川口市立科学館 副主幹 廣戸 理伸



～冬の特別展のご案内～

川口市立科学館サイエンスワールド冬の特別展の時期がやって参りました。

本年度は、「忍者」をテーマとして開催いたします。

＜令和7年度下期特別展＞ シン・忍者展－忍術を科学で学べ！－

★開催期間★

12月13日（土）～2月8日（日）

謎に満ちた存在の忍者や忍術を最新の史料で明らかにし、また現代の科学的アプローチや「科学」「技術」「工学」「芸術・教養」「数学」における知恵をヒントに、多角的な視点で忍術を紹介していきます。現代の生活にも活かすことのできる忍者の知恵や知識を学び、忍者マスターを目指そう！

～学校地域連携事業の実施概要を詳しく～

本年度も、年度当初より科学館による学校地域連携事業にたくさんの問い合わせをいただき、科学出張教室等多くの学校で行ってきました。

まだ、どのようなことをしているのか分からない…といった方のために、本年度の実施（予定を含む）内容から報告させていただきます。

内容によっては、まだ実施できます。まずは、科学館までご連絡ください。

①科学出張教室

学校全体や、学年単位、小学校におけるクラブ活動単位でも開催いたします。サイエンスショー30分、科学ものづくり15分が目安となります。

本年度は、「すごいぞ空気」という、空気（大気圧）をテーマにしたショーを基本として行っております。（ショーの内容については相談可）

科学ものづくりは学年や発達段階に応じた工作を実施しており、本年度は、「ストロー飛行機」や「ロコップ」などの製作をしております。（ものづくりの内容についても相談可）

理科好きな児童生徒を一人でも増やすことができるように事業を行っています。



開催風景



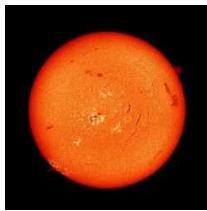
ものづくり

②太陽観測出張授業

小学校6年理科単元「月と太陽」、中学校3年理科単元「地球と宇宙」の学習効果を高めるために、実際に望遠鏡を覗いての観測実習を行っています。学校屋上や校庭に科学館の天文職員が望遠鏡を設置し、太陽の黒点やプロミネンスの様子を全員が観察できます。



観測の様子



実際に見える太陽

観測希望日に予備日を設け実施していますが、天候の状況により実施できない場合でも、天文職員による講義の中で画像や映像を用いて詳しく単元の内容を学習することができます。

今年は、太陽の活動が活発です。大きな黒点やたくさんの黒点を観察できるチャンスです。実際に望遠鏡に触れる機会は、学習意欲を高めます。

③講師派遣

プログラミング体験を実施しています。

コンピューターへの手順や指示をプログラムといい、そのプログラムをつくることをプログラミングといいます。

科学館が教育用ロボット「EV3」を持参し、児童自らプログラムを作成、思いどおりに動かす体験授業を行います。



EV3を使った授業風景

～今月のイチオシ！！～ 「学校連携事業」



ぼくらの科学展



わくわく屋台村

詳細は HP で
ご確認ください。



あなたは、まだ

本当のベーゴマを知らない ②歴史編

教育総務部・文化財課 文化財センター「郷土資料館」

コマの歴史をさかのぼると、古代エジプトや古代インダス、古代ギリシャの遺跡からも発見されており、世界各地で石や土、木や金属など多種多様なコマが昔から変わらない姿で存在している。その数あるコマの中でも日本独自のベーゴマは、一体いつからあるのだろうか。

●1 『日葡辞書』1603年

Bai. バイ(貝) 海の貝類の一種。¹⁾ ※ 1) 原文は *Espe-
cie de ostras, & marisco do mar.* ostra は牡蠣を意味す
るが、marisco と並べ用いて、海産の貝類の意を示す。羅葡
日の *Ostreariae; Ostrearius* の条にその例が見える。▶
次条。

†**Bai.*** バイ(貝) 『また、子どもたちが独樂(こま)として使
う、この貝または他の巻貝の殻。』 *Baiuo vt̄cu, l, ma-
uasu.* (貝を打つ、または、回す) この種の独樂を回して遊
ぶ。

ポルトガルのキリストン宣教師が布教活動のために1603年(徳川家康が征夷大將軍に任命され、江戸幕府を開いた年)に刊行した辞書。これが確認できている中で最も古いベーゴマの前身に関する記述である。

*画像:『邦訳 日葡辞書』1980年 岩波書店

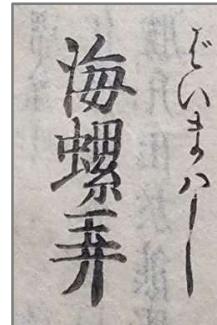
●2 『日次紀事』1676年

江戸時代中期の京都を中心に記した年中行事の解説書。9月末の記述を読むと、バイ貝を用いたコマ遊び*が書かれている。

*「此月、児童小石を以て海螺(バイ)の殻を穿ち、鉛を鎔かして殻の内へ入れ、或は洲濱飴を殻の内に充たし、其の力を助け、各緒を以て海を纏い、勢に乘じて台の内に投入れ、其の上に運転令しむ。其の力強き者、弱き者を於盆の外に出す。互に勝負を争う、是を海螺撃と称す。蓆の両端を台と為す、是を盆と曰う」

●3 『和漢三才図絵』1712年

江戸時代中期に編纂された類書(百科事典)には、「海螺弄=ばいまはし」が登場する。熊野産のバイ貝が適していることや遊び方など、図入りで解説されている。(図右上)



●4 『絵本御伽品鏡』1730年

大坂の風俗を題材として主に小商人や大道芸人が狂歌と挿絵とともに描かれた本。ここでは、バイ独楽を作る職人が描かれている。



●5 『守貞漫稿』1837年

江戸時代後期に起稿し、約30年間に渡って全35巻が書かれたが、刊行されずに残された。明治に入ってから『類聚近世風俗志』の書名で國學院大學出版部から刊行された。ここでは、バイ貝の加工の仕方が図解されている。

『好色一代男』(井原西鶴)や
「南総里見八犬伝」で有名な滝
沢馬琴がまとめた季語の辞典
『俳諧歳時記栢草』などにも
バイ回しが記されている。



令和7年度 川口市中学校駅伝競走大会 結果

期日：令和7年10月22日(水)

会場：川口市立南中学校周辺

◎ 県大会出場

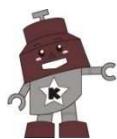
順位	男 子			女 子		
	6 区間 距離 18.3km		備考	5 区間 距離 12.3km		備考
	学校名	タイム		学校名	タイム	
優勝	◎ 南	58' 34"	大会新	◎ 安行東	45' 49"	
第2位	◎ 青木	58' 36"	大会新	◎ 戸塚西	45' 49"	
3	◎ 安行東	59' 14"	大会新	領家	46' 19"	
4	安行	59' 39"	大会新	安行	47' 18"	
5	芝東	60' 21"		鳩ヶ谷	47' 20"	
6	在家	60' 25"		西	47' 26"	
7	戸塚	60' 34"		芝東	47' 29"	
8	北	60' 51"		東	48' 07"	

[令和7年度 区間賞]

区間	男 子					区間	女 子					
	氏名	学校名	学年	記録	距離		氏名	学校名	学年	記録	距離	備考
1	柴田 平良	南	3	9' 55"	3.3km		1	佐野 希空	戸塚西	3	12' 01"	3.3km
2	近藤 拓	青木	2	9' 14"	3.0km	区間新	2	牛渡 沙那	安行	3	7' 16"	2.0km
3	島田 悠生	南	3	9' 32"	3.0km	区間新	3	浜口 紗綾	領家	1	7' 04"	2.0km
4	猪狩 宝	安行	2	9' 25"	3.0km	区間新	4	会田 莉唯彩	戸塚西	1	7' 16"	2.0km
5	三上 結雅	安行東	2	9' 39"	3.0km	区間新	5	小林 緒莉	安行東	1	10' 55"	3.0km
6	大森 元萌	戸塚	3	9' 50"	3.0km							



教育ルポ



令和7年10月22日(水)に「令和7年度川口市中学校駅伝競走大会」が開催されました。練習の成果を発揮し、仲間と襷をつなぐ姿が、私たちに多くの感動を与えてくれました。

令和7年度川口市中学校駅伝競走大会 令和7年10月22日(水)



学校における働き方改革の推進に関する「ノウハウ内製化研修」 ～文部科学省事業「令和7年度学校における働き方改革の推進に関する調査研究」～



令和7年11月13日(木)に『学校における働き方改革の推進に関する「ノウハウ内製化研修』を本市教育委員会の職員を対象に開催しました。本研修は、外部コンサルタントの支援ノウハウを、教育委員会の職員が身につけ(外部の支援ノウハウ内製化)、各学校の主体的な取組を後押しできるようにすること。学校における働き方改革の取組を通して、教育の質の向上につなげていくことをねらいとしているものです。当日は、講師の方にお越しいただき、「教職員のタイムデザイン」をテーマにワークショップに取り組みました。自身のタイムデザインを行うことで、より時間を大切に使い、効果的・効率的な働き方の実践を意識することができました。

本研修の内容を各学校で実施することも可能です。実施を希望される学校は学務課学事係までご連絡ください。

